

6年

狂言 柿山伏

横浜市立荇子田小学校 藤原 秀之

単元の目標

- ◎親しみやすい古典芸能の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。（知（3）ア）
- 古典について解釈した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知ることができる。（知（3）イ）
- 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。（思C（1）エ）



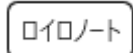
単元の特徴・付けたい力

本単元は、狂言を通じて知ることができる、昔と現代の人のものの見方・考え方の共通点・相違点について気づくことである。また役割を決めて音読をすることを通して、古典芸能の言葉の響きやリズムに親しむことである。

ICTの活用について

デジタル教科書を用いて、音読の工夫の仕方を記入させることにした。例えば、はやく、ゆっくりの「スタンプ」、表情の「スタンプ」、どんな様子かをタッチペンで書き込むようにした。このように音読の工夫をしていくことにより、役割を決めて楽しんで音読劇にのぞめるようにした。また、ロイロノートの動画撮影を使用することで、グループごとに納得のいくまで繰り返し行うことができるようにした。さらに、動画を共有することで、他のグループの発表をいつでも見るできるようにした。調子のよい言い回しや狂言に特有の表現にも気づかせたい。

全時学習活動（全5時間）

時	主な学習活動	
1	こども狂言「柿山伏」を視聴し、初発の感想を伝え合う。 「狂言を楽しみ、音読をしよう」という学習課題を設定し、学習課題を立てる。	こども狂言「柿山伏」
2	文章の構成を理解し、大まかな内容を確認する（伝える）	NHK for school おはなしの国クラシック「柿山伏」
★3	表現の特色に着目して「柿山伏」のおもしろさはどこにあるのか考え、話し合う。 狂言の特色を意識しながらペアで役割を決めて音読をする。	
4	「『柿山伏』について」を読み、狂言が伝えようとしていることや昔の人のものの見方・感じ方について考えたことを話し合う。 表現の特色に着目して「柿山伏」のおもしろさはどこにあるのか考え、話し合う。 ペアどうして音読劇の練習をする。	
5	ペアどうして音読劇の練習をする。学習してきたことを振り返る・学んだことを確かめ合う。	 （動画撮影）

★3 時の指導計画例

<p>◇学習活動・指導上の留意点 ◆ICT・デジタル教科書の活用場面</p>	<p>◆児童の反応 □先生の感想</p>
<p>導入：前時を振り返り、本時の学習のめあてをつかむ。</p> <p>「柿山伏」のおもしろさがどこにあるか考えよう。</p> <p>◇内容理解がしやすいように、三つの場面に分けて読み進める。</p>	
<p>展開(1)：「柿山伏」のおもしろさはどこにあるか、言葉の表現に着目する。</p> <p>①山伏の自己紹介や心の声の箇所を見つける。</p> <p>◆山伏の自己紹介や柿をとうととする心の声に線を引く。</p>  <p>②山伏が盗みをごまかそうとしてどんなことをしたかを見つける。</p> <p>◆山伏が盗みをごまかした部分に線を引き、音読の工夫を書き込む。</p>  <p>③山伏の柿主への要求を見つける。</p> <p>◆山伏は、本当は柿を盗んだことが悪いのにそれを棚に上げて、柿主にどんなことを要求しているのか線を引く。音読の工夫を書き込む。</p> <p>◇狂言独自の言い回し、特有の言葉の響きやリズム、繰り返しの工夫といった多くの視点に気付かせるようにする。</p> 	<p>◆線を引く・消すを、何度も繰り返しながら集中している。</p> <p>□教科書を何度も読み返す児童が増えた。</p> <p>□やり方を共有したことで、デジタル教科書に、「スタンプ」やタッチペンを用いて、書き込む児童が増えた。</p> <p>◆他者の発言で納得できた表現を「ふせん」に付け足している。</p> <p>◆「マイ黒板」で本文を抜き出す・消すを、何度も繰り返しながら集中している。</p> <p>□書き込む作業が苦手な児童も意欲的に作業ができていた。</p>
<p>展開(2)：狂言の特色を意識しながら音読をする。</p> <p>④これまでの学びを生かして、もう一度音読をする。</p> <p>◇3つの場面から選んで行う。</p> 	<p>◆声色を変えたり、身振り手振りを入れたりしながら、音読劇を楽しむ児童が出てきた。</p> <p>□はじめの段階では、教科書の内容がよく理解できないと話していた児童であったが、もう理解できていない児童はいないように見える。</p>
<p>まとめ：学習を振り返り、次時の見通しをもつ。</p>	<p>□読みの工夫を共有し、音読の工夫ができたことで、次の時間の授業が楽しみになったようだ。</p>